

奈良市自治連合会だより

第33号

発行 「奈良市自治連合会
だより」編集委員
発行部数 15,000部

自分たちの地域は自分たちで守る

—令和5年度奈良市自治連合会総会—

5月24日(水)、はぐくみセンター9階大講教室にて奈良市自治連合会総会を開催しました。

冒頭、奈良市自治連合会 作間会長は挨拶の中で、「『自分たちの地域は自分たちで守る』とは防災でも言われることだが、地域活動全てにおいても言える。それを支えるのが奈良市自治連合会の役目であり、一番の目的でなければならないと考えている。」と話しました。

会員総数49名のうち委任を含め出席総数49名で、令和4年度事業・決算・監査報告、令和5年度役員・監査・事業計画案・予算案のすべて原案通りに承認可決されました。

奈良市自治連合会は、地区自治連合会相互の連携を図り、その中心的存在として連合体機能を発揮しつつ、更なる「地域自治協議会」設立への取り組みを通して、各地区自治連合会から「頼りになる」存在となることを目指します。

そして、行政が抱える重要課題の解決に向かって必要に応じた取り組みを行うなど、市との協働パートナーとしての役割を果たします。

また、平成25年から開催してきた「地域自治協議会検討委員会」は「地域自治協議会推進部会」に改め、全地区参加のもと地域課題の共有と協議を行います。

仲間づくり=人づくり

奈良市自治連合会 会長 作間 泉

地域活動は大変。面倒くさい。きりが無い。いつも同じことばかりで面白くない。もういいか。と諦めないで今一度周りを見てください。

今までしてきたことを見てくれている仲間がきっと近くにいるはず。その仲間と一緒に活動すれば、面倒くさかったことも楽しくなってきます。仲間づくりはとても大切なことであり、そこから新しい人と出会って楽しい輪が広がっていきます。時には意見の対立や考え方の相違はあると思いますが、地域をより良くしたいという思いには違いはありませんから、じっくり話し合い、落としどころを見つけて協働していきましょう。お互いを尊重しつつ、自分の意見がしっかり言える人間関係が築けると思いますし、それこそ人づくりになっていると思います。

失敗を恐れず、何事も前向きに考えて地域活動を頑張りましょう!!

地域自治組織づくり

検討段階から推進実践へ

<低下一途の加入率>いま奈良市16万世帯のうち自治会加入は11万、自治連合会加入は10万世帯を切っています。このように自治会始め地縁団体の組織率が低下一途であり、加えて担い手不足が深刻になってきました。

ところが、防災や防犯、福祉増進や環境面など行政と連携して取り組むべき地域課題が山積しています。さて「どうする家康」です。

<元気な今のうちに>「住みやすい、住み続けたいまち」へ、今はまだ、自治会や様々な団体が協力して地域を支え、災害時など「イザ」というときには住民同士の支え合いが頼りになります。

比較的元気なうちに、地域を構成するすべての団体や個人がまとまって、力を持ち寄って活動していくことが大切ではないでしょうか?

<仕組みづくりへ結び直し>このため、地域の課題に見える化し、共有して、役割分担しながら活動し解決していく仕組みへ創りなおす。この仕組みを奈良市では「地域自治協議会」と呼称し、地域を構成する団体や個人の強みを生かして総合力を発揮することを狙っています。

<行政と連携協働>行政の支援もあり、奈良市では16の地区で「地域自治協議会」が設立され、準備中の地区もあり、自治会の皆さんと話し合いが進んでいます。地域を良くするために「誰かに何かをしてもらう」という感覚を捨て、自分事として考え行動する 때가来ています。

『自治会活動の手引き』

—令和5年度版お手元へ—

奈良市自治連合会では、自治会活動の指針となるものとして、今年も「自治会活動の手引き」を発行し、市内全自治会に配布させていただきました。

「自治会活動の手引き」は、自治会交付金や届出に関する事など、自治会に関する情報とともに奈良市公式ホームページに掲載されています。

自治会の活動を行われている方へ奈良市で検索

令和5年度4部会のテーマ

地区自治連合会を対象に昨年度実施した地域課題についてのアンケート結果をテーマ別に整理しました。今年度の部会はそれらをテーマとして意見を出し合い、市への要望等を含め解決へと導く場になります。

地域自治協議会推進部会

- 自治会会員数の減少・担い手不足
 - ・自治会に魅力を感じない
 - ・加入促進のための施策が急がれる
 - ・若者を取り込むための手段が見えない
- 住環境について
 - ・道路の整備 ・公園や街路樹などの緑化整備
 - ・空き家問題 ・拠点の整備
- 地域自治協議会の推進にあたって
 - ・なぜ必要なのか
 - ・どうすれば全市的に取り組めるのか

防災防犯部会

- 避難行動要支援者名簿
 - ・書面が煩雑 ・管理できない
 - ・制度そのものの意味が分からない
- 防災・防犯意識の向上
 - ・市の防災備蓄について活用方法など知りたい
 - ・詐欺被害が周知しても減らず、対策はないか
- 見守り活動
 - ・警察、青パト、PTAと地域の連携の強化
- 総合防災訓練のありかた
 - ・市と地域が同日開催のため、重点会場に行けない



学校部会

- 不登校問題
- 貧困家庭の教育推進
- 通学路の安全整備
- 学校区の整理
- 学校と地域の関係性
- 教育委員会の地域に関する考え方
 - ・地域からの要望など教育委員会と学校で情報共有されていない
- 地域教育協議会と学校運営協議会の違い
 - ・一つにできないか



福祉部会

- 高齢者福祉の仕組みづくり
 - ・一人暮らしの高齢者が急増
- 買物難民
 - ・市街地においても買物難民が増えている。市全域をカバーする取り組みが必要
- 障がい者福祉について
- 児童福祉について
- 見守り支援員制度について
- サロン活動等地域の活動への参加啓発と方法
- 民生委員・児童委員との関係

令和5年度 奈良市自治連合会 名簿

ブロック	地区名	会長名	役職名	ブロック	地区名	会長名	役職名
中部Ⅰ (5地区)	飛鳥	平島 幸徳		西北部Ⅰ (4地区)	登美ヶ丘	武智 一記	ブロック長
	済美	池口 光隆	副会長・ブロック長		東登美ヶ丘	河野 良彦	副会長
	済美南	長谷川憲二	事務局長		平城西	岸 徹	
	鼓阪	平野 康隆			鶴舞	階戸 幸一	
	佐保	岡崎 忠直		二名	戸村 義弘	監事	
中部Ⅱ (4地区)	橿井	尾形季久雄		西北部Ⅱ (4地区)	青和	日夏寛次郎	
	大宮	長本 昌夫			富雄	大谷 廣信	ブロック長・監事
	佐保川	金野 秀一	ブロック長		鳥見	山田 昌彦	
南部 (6地区)	大安寺西	古谷 頼和		東部 (6地区)	田原	北森 雅人	
	東市	南浦 實			柳生	中窪 忠司	
	明治	野口 隆身	会計		大柳生	東浦 光昭	
	辰市	土井 実	ブロック長		東里	東浦 和男	副会長
	帯解	六十谷 進			狹川	大南 善英	ブロック長
西南部Ⅰ (7地区)	精華	吉崎 弘俊		北部 (5地区)	月ヶ瀬	紙家 光郎	
	大安寺	市川 恵一			神功	笹部 和男	
	伏見	山口 誠	ブロック長		右京	中嶋 一樹	
	伏見南	畑村 実			朱雀	作間 泉	会長・ブロック長
	西大寺北	坂本 章弘			左京	田中 明	
	六条校区	(代行)柳川 隆雄		佐保台	川本 了造		
西南部Ⅱ (4地区)	あやめ池	高西 信治		都祁 (4地区)	並松	山本 博延	
	都跡	堂上 健次	副会長		吐山	庄中 栄一	
	平城	井村 誠之			都祁	笠谷 精文	ブロック長
	学園南	温井 久男	ブロック長		六郷	向井 敏之	
西南部Ⅱ (4地区)	富雄南	上谷 勝		(大宮)	吉岡 正志	相談役	
	奈良帝塚山	小嶋 勉		(大安寺西)	梅林 聡介	相談役	
	学園三碓	竹内 正春					

地域自治協議会 地域一丸となり課題に向き合う

令和5年8月に田原地域自治協議会が新たに奈良市の認定を受け、現在、奈良市内16地区で地域自治協議会が設立されています。

地域自治協議会設立までにご苦労されたこと、設立して良かったことや課題などについて一部ですがご紹介させていただきます。

地域自治協議会については、奈良市役所ホームページにも掲載されています。右のQRコードからアクセスしてご覧いただけます。



学園南地域自治協議会 令和元年6月認定

令和元年6月に学園南地域自治協議会として認定され現在に至っております。地域自治協議会へ移行するため、平成27年より移行検討委員会を設立し各種団体・各種委員によって地域課題や活動状況等を整理、地域活動の目的を明確にした地域自治計画書（中長期）を作成しました。

設立当初から現在に至るまで以下の項目が継続課題として取り上げられています。

- ①人材…役員後継者の確保、自治会長1年交代（輪番制）
- ②活動拠点…拠点となる集会室の確保（狭隘）
- ③財源…自主財源としての新規事業が乏しい

現在の状況としては、設立時に比べ役員の高齢化や住民の自治会離れにより一層活動が困難な状態にあります。組織全体としては、各部会の連携や運営が円滑に進められており問題も少ないため設立前と大きな変化は感じられません。

今後は、コーディネーター等に指導を頂き、抱えている課題を少しでも解決できるよう方向性を導き出し、多くの住民の方々に自治会活動に関心を持ってもらい、協力を頂けるような活動を進めるべきであると思います。

左京地区地域協議会 令和元年6月認定

協議会を設立して良かった（上手くいった）点は、設立に向け、全住民にアンケートを取り地域の課題が見え地域各団体と協同で「地域自治計画書」を作成し毎年、PDCAを実践していることと、地域内各団体と情報共有も深まり、風通しも良くなり結束が強化されたことです。

今後の課題（困ったこと）は、地域内各団体とも人材不足で、地域協議会先導の立場の自治連合会役員が地域協議会でも積極的に活動していること。退職年齢も上がり、人材確保、後継者育成が困難です。

済美南地区自治協議会 令和元年7月認定

子ども食堂への協力や夏休み済美子どもまつりの実施など新たな活動とともに地区諸団体が一丸となれました。

協議会への交付金で活動資金の確保と使い道に流動性が生まれ、重点課題への対応が図れました。

西大寺北地域自治協議会 令和5年7月認定

地域自治協議会発足後6年経過しますが、その間に感じたこと。発足2年目に民児協が脱会して、市の認定を受けられなくなり本年やっと復帰が成り認定を受



認定式の様子（左：坂本会長 右：谷田市民部長）

けることができました。脱会の理由は「運営が民主的でない」とのことで具体的な内容はまだ分かりませんが、何のために地域自治協議会を作り、どのような運営をしていくのかというビジョンを共有できなかったことが原因だと思います。実際、地域自治協議会、地域自治協議会と言っているのは自治連合会だけ、それも会長だけというのが実態ではないでしょうか。大義のために一応集まっていますが、それを上回る不満があれば簡単（？）に抜けて（脱会）しまうという状況があるように思えます。

それはなぜか。結論から言うと単位組織としての自らの業務をこなすのが精いっぱい会議（理事会）に出席することすらも屋上屋業務になっているからです。いうまでもなく各団体とも予算を流し、業務を指示・依頼したりする行政部署があり、それがバラバラだからです。そんな中でも当地区では各団体のカバーできていない活動（通学路見守り）と各団体をつなぐ活動（ふれあい祭り）及び広報誌の発行に絞って活動をしてきました。

また、組織的には、既存の組織のあて職で理事や役員になるような人はあてにせず、事務局員に所属や立場は関係なくその気がある人、ポスター作成など技術に長けた人になっていただくようにしています。今のところ定着は悪いですが、今後礼金なども出せるようになれば少しは定着していただけたと思います。

そうなんです。協議会というのは会費もなく収入が連合会からの助成金だけだったんです。気持ちの問題としてタダ働きは続きませんよね。

わがまち自慢



ほほえみつなぐまちづくり

明治地区自治連合会

明治地区は奈良市の南部に位置し、青丹よし奈良の都は咲く花の……と古歌にうたわれた平城京の南にあたります。

もとは添上郡明治村で、昭和30年奈良市に合併され、明治校区、明治地区と呼ばれています。

当地区は歴史的にも古く、室町時代末期にはお城があったと言われており、古き時代からの西山神社、白山神社、崇道天皇神社など、多くの神社が現在も残られています。

農家の多い地区でしたが、合併後の昭和四十年代中頃から開発が進み、新興住宅が出来て新しい仲間(住民)も増え現在は15自治会を有し、4210世帯、人口は8875人となっています。しかしながら、自治会加入率は年々低下し、災害時の防災対策や高齢者への福祉、子どもの教育、安全活動などの地域コミュニティが希薄化してきています。

これらのことから、コロナ禍で地区活動が出来なくなったのをきっかけとして3年前に自治連合会が主導して地域自治協議会の立ち上げを検討し、令和3年4月に明治地区自治協議会を立ち上げました。

活動拠点は明治分館を「地域ふれあい会館」として整備し、13の地域の各種団体が構成することができました。

初年度の取り組みとして、しみんだより配布事業と個々のボランティアに頼っていた通学路の子どもの見守り活動を組織化しました。2年目には、草刈りチームを結成し、明治地区内の街区公園の整備事業を始めました。最初は役員だけでスタートしましたが、地域の人たちも参加してくれたり、差し入れがあったり、早くも地域が覚醒しています。

また、連絡所の廃止に伴い地域での市民サービス事業を始めました。

「活動の担い手を地域全体で支えあえる～ほほえみつなぐまちづくり～」そんな理想を掲げてスタートした地域自治協議会が5年先、10年先持続的に継続する活動となるよう「地域ふれあい会館」を拠点に頑張ります。

煌めき・ひらめき・改革

朱雀地区自治連合会

令和4年に『平城・相楽ニュータウンまちびらき50周年』を迎えたことから京都府木津川市や相楽台、精華町桜ヶ丘地区の方々との交流がございました。県境を超えて8住区協働で取り組めた事業をヒントに、他地区と合同で様々な事業に取り組んでいます。

京都側の事業は、社会福祉協議会を中心とした事業が多く、子どもから大人まで一緒に楽しめるイベントを多く開催されていて、どれもアットホームな心温まるイベントばかりでした。そこで、朱雀地区で開催しているイベントも年齢に関係なく参加していただくも



子どもも楽しめる居酒屋 2023

のにリニューアル。

定番の居酒屋も小さなお子様と一緒に来ていただけるよう、子どもから大人まで楽しんでいただけるようなスペシャルな企画を中に取り入れたり、8月20日の子ども向けイベントでは、学生ボランティアさんに企画から参加してもらい、簡単な理科実験を含んだ楽しいイベントを企画しました。



優しく揺らめく竹あかりの灯

また、8月5日には4年ぶりに夏まつりを開催することができ、まつりの中のイベントとして、小学生を対象にしたクイズ大会や、地元のドッジボールクラブのミニ大会など、今までの枠にとらわれないイベントを開催しました。

10月は竹あかり(新規事業)、11月はキッチンカーフェスタも新たな発想でより楽しく地域の方に喜んでもらえるイベントにしたいと思います。

イベントばかりをしていますが、地域の活性化には一番功を奏していると思いますので引き続き楽しんでまいります。よろしく申し上げます。

編集後記

「この地域、いいふうになってきているよね。」夏休み子どもまつりの手伝いに来てくれた自治会長の言葉です。コロナ禍において各地域の行事や活動の中止が相次ぐ中、大きなピンチをチャンスと捉え、今までの発想を転換し、出来る事を考え工夫しながら多くの新しい活動を行いました。今後も伝統を重んじつつ新しいことにも挑戦していきたいものです。(編集委員長 長谷川 憲二)